

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111(代)
印刷所 旭 印 刷
電話(水俣)4101番
○右の題字は「徳富蘇峰さん」
の顔を写したものです。

津 奈 木



芦北郡絵図
津 奈 木 太 郎 峠 より 眺 望



得ないのですが、敢てプラス志向で物事を考えてゆきたいと思うのです。バブル崩壊以前の私達日本人にとって、物質的豊かさ即ち、人生の豊かさという図式が、多くの人達の意識の中にあったと思います。それがここにきて、豊かさの象徴だったものが音を立てて崩れてきました。そして、物の豊かさ引き換えに心の豊かさを失ってきたことに、皆が漸く気付き始めまし

新年のごあいさつ 『真の豊かさ』 津奈木町長 西川 裕



新春のお慶びを申し上げます。
さて、不景気・金融不安・環境破壊等、厭なニュースばかりが溢れ、気象まで狂ってきている昨今です。行政をお預りしている立場として、無力感を感じざるを得ないです。
た。一目散に、富という目的に向って走っていて、突然石に躓き、ころんでみて初めて、今迄走って来た道を振り返ることになりました。がむしゃらに走った跡は、荒野となり、花も踏まれ、生き物の死体がいっぱい転がっていて、走っていた本人も、疲れと空虚感ばかりが感じられる状況が、今の日本なのではないでしょうか。人生の道は、もつとその過程を大切に歩み、周囲の物と共存しながら、自己を生かし、他者を生か



庁舎美術館(75)
水彩葉書
「南郷谷入口」一九八八
境野一之作
漂う澄んだ空の下には、美しい山々に囲まれた谷間が続く。山から吸いとられた水は、山の激流に揉まれ、この谷を通り満ち溢れた河となる。
「底浅き小川は音を立てて流れ満水の河はおのずから静かなり」
谷の向こうは、豊かな自然に恵まれた、笑いの絶えない場所だろう。



『くらしと人権』
感性を磨いて
下さい
つわぶきセミナーに久しぶりに参加しました。「人権」とか日常生活の中ではあまり考えることがありませんが、今回の中村貞夫先生の講演を聞き、世界的にもまだ人権が大切にされていない事実を聞き、改めてびっくりしました。
特に印象に残った話に「感性を磨いて下さい。価値あるものを大事にして下さい」とありました。今、たくさんの情報から選ぶのは大変ですが、だからだと聴き流すのではなく何か視点をもつことではないでしょうか。これを機会に図書館に出掛けて自分の感性を磨ける本を探してみたいと思います。今から楽しみです。まずは、先生から紹介していただいた本から読んでみたいと思います。

お 知 ら せ

成人式御案内

- (受 付)
●午前9時から10時まで
※受付は早めをお願いします。
- (内 容)
●主催者、来賓等の祝辞
●祝舞
●成人者代表謝辞
●ふる里紹介(スライド)
●成人者自己紹介
●記念撮影等
●記念植樹
※服装は普段着で参加して下さい。

親子「た」あげ

- 参加者募集
●日時 平成10年1月18日
(日)午前10時から
11時40分まで
- 場所 津奈木総合グラウンド
(次の各賞を準備しております。)
- 高とび賞・大型賞
小型賞・ファミリー賞
アイデア賞・曲芸賞
地引賞等
お待ちしております



三太郎駅伝大会に応援下さい

(本町通過時刻予定)
総合グラウンド
新川橋 10時25分
中学校前 10時30分
千代畜産碑 10時35分
10時45分
来る一月十一日(日)午前10時、水俣市役所をスタート、湯ノ見海岸道路を抜け、三太郎峠を越え、田浦町改善センターのゴールを目指して力走します。
町民皆さんの絶大な応援をお願いします。なお、津奈木町代表選手は次のとおりです。

(中学生の部)
諫山隼人・門崎照征・岩崎平・上村太志・竹田瑛典・山口幸七・野崎孝祐・新立大輔・千々岩磯六・村上浩章・松田俊一・吉野早奈美・岡本 愛・斉藤美佳・(監督) 田原正和

松永 進・川野又男・川口香・林田祐一・福田 必・森山広行・倉野義彦・宮嶋弘行・齊藤誠・藤原重一・田口伸二・清水良二・齊藤拓巳・諫山吉光・平野新市・大川 稔・開田龍一・前田守康・長浜勝一・竹本昌広・宮嶋哲男・吉野貴則・(監督) 宮嶋弘行

「祝成人!!」 ◎努力に勝る天才なし!!

地 区	氏 名	地 区	氏 名	地 区	氏 名	地 区	氏 名
竹 中	林 田 勇 樹	古 川	吉 山 和 道	内 野	田 上 真 貴 子	平 国 下	長 濱 絵 里
	本 山 礼 文		川 崎 美 佐 子		坂 本 恭 子		長 濱 秀 樹
染 竹	井 上 朝 彦		佐 藤 美 鶴		山 本 文 子		瀧 田 雄 偉
	新 立 達 也	大 泊	新 立 結 城	上 下 門	伊 藤 恵		山 下 英 俊
	松 永 尚 子		入 江 純 名		荒 川 岳		山 口 美 和
	中 村 早 智		新 立 康 之		北 山 美 幸	日 当	松 田 賢 真
浜 崎	前 坂 裕 美		柳 迫 主 朗		川 野 尚 代		森 本 明 美
	木 戸 里 美		後 藤 (新 立) 愛	川 内	西 平 仁 代		森 山 和 彦
	前 田 耕 広		新 立 恵		平 松 (古 里) 美 由 紀		吉 野 奈 美
	大 園 直 子	古 中 尾	黒 田 正 広	福 浦	福 山 健 吾	日 添	村 田 浩 典
	寺 川 智 穂		原 野 了 輔		松 崎 保 栄		篠 原 麻 紀
桜 戸	石 田 博 範		山 本 裕 子		神 子 鈴 代		瀧 崎 昭 広
町 中	元 村 梨 沙		園 木 誠 二		福 田 進 一		上 村 智 恵 美
新 川	川 崎 学		福 本 さ ゆ り		福 田 光	小 津 奈 木	松 永 佳 代
	岩 崎 智 恵		黒 田 知 子		福 山 敦 治		福 山 健 一
	山 下 歩	倉 谷	大 森 圭 一 郎	平 国 上	平 野 誠 孝		永 松 裕 子
	瀧 本 聡		谷 口 祐 介		松 本 博 志		瀧 本 か お り
	西 川 美 由 紀		前 田 和 成		石 井 (村 上) し お り	辻	森 本 茜
古 川	脇 畑 (西 川) 雄 一 郎		伊 藤 (小 坂) め ぐ み		野 崎 祐 一 郎	丸 岡	篠 原 直 樹
	川 崎 輝 幸		中 山 智 宏		野 崎 由 香 理		
	瀧 本 尊 則	内 野	山 路 隆 弘	平 国 下	鬼 塚 勝 仁		



黒田 正広

成人を迎えることになり、社会人となる喜びがある反面、私自身の行動や言動に責任をもたなければならぬという不安もあります。

私は、生まれてからこれまでに多くの人と出会い、ふれあってきましたが、学校、地域、職場、そして家族の中で、どちらかというと、今までは、未成年ということ



成人になって 私の決意



伊藤 恵

で、いろいろと大目に見てもらいた。でも、これからは一人前の社会人として扱われるわけですから、恥ずかしいように、皆様のご指導・ご鞭撻をいただき、それを頼りに、りっぱな社会人になっていきたいと思ひます。

今日まで両親、親族、友人達に暖かく見守られ過ごしてきました



荒川 岳

今年、私も成人式を迎えることになった。成人ということでは社会的責任、経済的自立を真剣に考えなければならぬ年齢になった。

人生は長い旅のようであるとよく例えられるが、今までは舗装された道を歩いていたようなものであった。この先は自分で道を切り開いていかなければならない。そういう



山本 文子

う意味では、成人式というのが、自分の人生のスタートラインだと思ふ。これから先、いろいろな困難にぶつかると思ふが、そんな時に自分自身に負けない人間になり、他の人に何と言われても、自分自身が納得出来る旅にしたいと思っている。

二十歳となった今、法律上も一人前として扱われ、結婚も自由に

中学校だより 子供と共にあるPTAの工夫

平成九年度のPTA活動は、子どもの教育のために親どうしが親しくなること



を目標に取組んでいます。そのためには、いろいろな催しに多くの会員の方が参加して頂くよう工夫をしています。

今年の体育大会では、「PTA仮装競争」を実施しました。学級対抗で、担任の先生と保護者一名を、

短歌

本郷武雄選

暮れなすむ寺よりひびく晩鐘の哀しきまでに余韻曳きつつ

朝咲く大輪の白き酢美容午後より夕に紅とかわりつ 福田八重子

生ごみをうめたる畑にじゃがいもの皮より芽だち実をつけており 沢田しず子

亡き夫に同窓会の通知来て予期せぬ悲しみ身内走りぬ 白浜美和子

子も孫も法会の席につらなれり亡き夫見ませこの族らを 柳迫いづも

秋の夜に音なくえがく飛行雲月をよきりて白き直線 寺本ツルヲ

癒えがたき疲れに夏を捨ておきし畑は荒れたりひとり草刈る 西 滋子

肥後狂句

野田 浦子

初夢 忙しゆして見らんじやった元氣よき 90歳やと思われん 神無月

初夢 重盤岩の初日の出元氣よき 余程業の効いたげな 達生

初夢 舞い込んだきた福の神元氣よき 金さん銀さん見てごらん 万葉

初夢 屠蘇ひん飲んだらうち忘れ元氣よき メガネは要らんし歯も 白足袋

初夢 六度の干支も健やかに元氣よき こん寒んかてカキ打ち 寅之助

「次笠」本気かい おしやべり屋 一笠二句すつ二月十日まで つなぎ文化センターへ

ここに、こんな人が……

ひげのおじさん
とよばれて

松永邦雄さん(47) (染竹)
染竹地区にお住まいの髭の叔父さんで知られている松永さんは舞鶴太鼓の顔として活躍しておられます。



津奈木町の活性化を図る為に太鼓を買い揃えて貰い、同志が集まり舞鶴太鼓を組織してから九年の月日が経っています。

「週三回夜練習しており近頃では町内のイベントを始め近隣の市や町からの出演依頼があるようになった」と話される松永さん。曲を作ったり構成をされたり子ども太鼓を指導されておられます。

廃油から石鹸を作る事を仕事にされていて水俣の工場だけでなく、家庭から出る廃油を使って石鹸を作る技術を指導され、国内だけでなくアジアを中心に海外でも普及に努められておられます。

環境作りと健康な暮らしを心がけ、それぞれの立場でできる事を実践しなければならぬことを改めて考えさせられました。未来に残そう、きれいな水、海や川 (石田記)

「行つて来ます。」用心しで行けよ」と送り出してくれる主人。一年の六分の一の夜を趣味のコーラスに通い始めて十年になる。顧みると義母の他界に伴い残された義父との同居のため津奈木に居を転じた。それは当然であるが、なにしろ交通の便が悪く、止むなく自動車学校に通い始め胃がよじれる程の思いで免許取得したのが五十四才の時である。車「様」様、行動範囲は必然的に広がった。コーラスを始めたのも自動車学校で友人からの誘いがきっかけである。今は多くの友人

を得、いろんな面での社会参加が出来たことや、国際交流使節団として台湾、オーストラリアへ親善演奏旅行が出来たこと、ボランティア活動でやすらぎ苑、出水の精薄施設、あけぼの苑の慰問、そして忘れられないあの感動的な「ここコンサート」の参加体験であった。県立劇場館長鈴木先生

おたまじやくしの おくりもの

松原 伸

感動の涙を今も忘れることはない。平成五年と九年の二回の公演は全国に放送され全世界に流れたとのこと。ところでマミィコールは結成されて二十年になり去る十二月にみつば学園、台湾